

賀谷藻部の紹介

賀谷藻部(mob)とは
NPO法人賀谷藻場保全会の
公式応援団体です。

NPO法人賀谷藻場保全会が行う
藻場再生活動への協力と、
漁村との交流を目指しています。

応援会員の皆様には、mob通信と、
心からの返礼品をお送り致します。
どうぞお気軽にお尋ねください。

NPO法人賀谷藻場保全会の活動を、
応援団体賀谷藻部会員の皆様と共に
続けて参ります。

応援会員の年会費と返礼品の回数

Sコース・ガヤモバ海
120,000円/年 4回
Gコース・ガヤモバ土
30,000円/年 4回
Aコース・ガヤモバ水
10,000円/年 2回
Wコース・ガヤモバ風
5,000円/年 1回



振込先

九州信用漁業協同組合連合会
長崎統括支店(県コード9489 店番004)
普通口座 口座番号 5100113
特定非営利活動法人賀谷藻場保全会



<https://gayamoba-2.jimdosite.com/>



[gayamoba](https://www.facebook.com/gayamoba)



[@gachimoba](https://twitter.com/gachimoba)



[gaya.mob](https://www.instagram.com/gaya.mob)



[gayamob](https://line.me/tv/gayamob)



0920-55-0246

[gayamobahozenkai](mailto:gayamobahozenkai@gmail.com)

[@gmail.com](mailto:gayamobahozenkai@gmail.com)



当パンフレットは環境省の令和4年度
「令和の里海づくり」モデル事業で作成しました

mob通信
2023年冬号



素晴らしき今日を
あなたとともに



発行
NPO法人賀谷藻場保全会



「令和の里海づくり」 モデル事業始動



秋号でお伝えした環境省「令和の里海づくり」モデル事業のその後をお伝えします。

11月18日 npo対馬郷宿さんが管理する半井桃水館にて環境省、三菱UFJリサーチ&コンサルの面々と意見交換、賀谷産品の販売連携について地元npoなどと協議会を開きました。



意見交換会の様子



賀谷での集合写真

翌19日あいにくの時化で、賀谷の海はお見せできませんでしたが、植林の現場や作業状況を視察いただきました。山では、今年も植樹祭に向けて植林地の管理をしています。

今年は、植林地の整備で伐採した雑木の枝を使ってイカ柴産卵床を作っています。近年の海中環境は季節が大きくずれている様な感じがして、何時何処で何が起こるか予想できません。イカ類の産卵行動も春と秋に限定できなくなっている感じなので組合から許可を頂いた限りは「ちょっとまてえ」と言われるまで入れ続けてみたいと考えています。



視察の様子



イカ柴産卵床

対馬グローバル大学実習参加



11月14日 対馬市が運営している市民の学びの場「対馬グローバル大学」の環境ゼミの皆さんが現地実習で賀谷藻場に集まりました。じつは、賀谷藻場保全会にも2名環境ゼミ生がいます。



事務所を開放して、実習活動

対馬グローバル大学環境ゼミでは、受講生の方々一人ひとりがテーマを決めて活動に取り組んでいます。受講生のテーマであるマイクロプラスチックやクラゲ採取、そして、賀谷藻場の今後についても意見交換をさせていただきました。

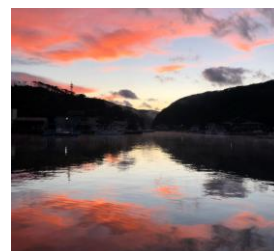


マイクロプラスチック調査の様子

科学的な情報に基づいた資源管理と生態系の保全に力を注ぐ、そのことが漁村の維持に繋がるであろうとの共通認識が広がりを見せる為にも、対馬グローバル大学との今後を楽しみにしています。



賀谷 冬の海は寒けむり（気嵐（けあらし））



冬の藻場再生活動



賀谷を含め、対馬の冬は滅多に雪は積もりません。けれども大陸から吹いてくる風（満州の風）は堪らなく冷たいのです。

1月大寒、海藻たちの春はもうすでに始まっています。例年、この時期にカジメの種苗投入を行います。



基板の準備の作業



基板に種苗をつける作業

今年は、長崎県ボランティア基金の活動助成を頂き、カジメ種苗を購入しました。カジメの種苗は系につけられた状態で販売されています。この種系をプラスチック基板に取り付けていきます。取り付けた基板は、海に吊り下げて、少し大きくなるまで育てます。

賀谷藻場の海では、管理者 美津島町漁協と共に藻場再生に取り組んで参ります。



植樹予定地より賀谷藻場の海面養殖場を臨む